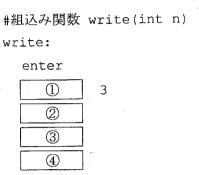
2014/02/12

問 1 picoc09 のコード生成に関する次の(1)~(2)の問いに答えなさい.

(1) 引数として与えられた数値を表示する picoc09 の組込み関数 write に対する機械語コードを下に示す、空欄に入る適切な命令を答えなさい.



(2) picoc09 の WHILE 文に対するコード生成について、下のプログラムの空欄に入る適切な語句を(a)~ (j)から選びなさい。ただし WHILE 文の構文は次のとおりである。

<WHILE 文> → while (<式>) <文>

```
nextsym = scanner get next sym();
void parse while statement(void)
                                        if (nextsym.sym != SYM RPAREN) {
         11[LABEL LEN], 12[LABEL LEN];
                                            ERROR("Parser error");
  format label(label counter, 11);
  label counter++;
                                          codegen put code str( 4
  format label(label counter, 12);
                                          nextsym = scanner get next sym();
  label counter++;
  codegen put label( 1
                                            (5)
                                          codegen_put code str(
  nextsym = scanner get next sym();
  if (nextsym.sym != | ② |) {
                                          codegen put label(
      ERROR("Parser error");
```

```
(a) "jf" (b) "jp" (c) "jt" (a) 11 (e) 12 (f) parse_expression()
(g) parse_statement() (b) SYM_LPAREN (i) SYM_RPAREN (j) SYM_WHILE
```

(3) 次のプログラムに対して生成される picoc09 の機械語コードを示しなさい. ただし,変数 a の変位は A で表すものとする.

if (a) a = 0;

問2 構文解析に関する下の(1)~(3)に答えなさい.

- (1) ①~④ を、解析能力が低いものから高いものへ順番に並べなさい。
- (2) 上向き構文解析手法に属するものの番号をすべて示しなさい.
- (3) LR 構文解析手法の中で、解析能力と構文解析表サイズのバランスの点ですぐれており、実際の言語処理系でよく用いられるものを番号で示しなさい.
 - ① LALR 構文解析法 ② LL 構文解析法 ③ SLR 構文解析法 ④ 正準 LR 構文解析法

問3 下の①~⑦の規則で表される文法に関して次の(1)~(10)の問いに答えなさい.

- (1) 規則②のように左辺の構文変数 (E) が右辺の式の先頭に現れることをなんと呼ぶか.
- (2) 下の SLR 構文解析表において、括弧なしの数の欄に対応する動作はなんと呼ばれるか、
- (3) 下の SLR 構文解析表において、括弧つきの数の欄に対応する動作はなんと呼ばれるか.
- (4) 下の SLR 構文解析表において、括弧内の数は何を指しているか.
- (5) 項(たとえば「 $\mathbf{E}' \to \mathbf{E}$ 」)における「・」をなんと呼ぶか.
- (6) 規則④について、項をすべて示しなさい。
- (7) 項「E'→・E」の閉包を求めなさい.
- (8) SLR 構文解析において、項「 $A \rightarrow x$ ・」を含む閉包を解析しているときに、x を A に還元するかど うかの判断基準を、FOLLOW 集合を用いて説明しなさい。
- (9) 下の SLR 構文解析表を用いて、入力「(id + id) * id」に対する構文解析の動作を示しなさい.
- (10) 入力「(id + id) * id 」に対する解析終了時のスタックと残り入力を示しなさい
- ※(9), (10)は解答用紙の表の空欄に記入

文法 ① E'→E

- \bigcirc E \rightarrow E + T
- \bigcirc E \rightarrow T
- $(4) \quad T \to T * F$

- \bigcirc $T \rightarrow F$
- $\widehat{\text{6}}$ $F \rightarrow id$
- $(7) \quad \mathbf{F} \to (\mathbf{E})$

SLR 構文解析表

OF1 (144 V	17T1/1 2X								
状態	状態遷移								
	id	+	*	()	\$	Е	Т	. F
0	5			4			1	2	3
1		6				終了			
2		(3)	7		(3)	(3)			
3	· · · · · · ·	(5)	(5)		(5)	(5)			
4	5			4			8	2	3
5		(6)	(6)		(6)	(6)			
6	5			4			,	9	3
7	5			4					10
8		6			11				
9		(2)	7		(2)	(2)			
10		(4)	(4)		(4)	(4)			
11		(7)	(7)		(7)	(7)			

アセンブラ表記	意味	動作
pushl n	ローカル変数をプッシュ	push(*(fp + n));
storel n	ローカル変数への格納	*(fp + n) = *sp;
storet n	一時領域への格納	*(sp + n) = *sp;
pushi d	定数をプッシュする	push(d);
call <i>label</i>	関数を呼び出す	<pre>push(pc); pc = label;</pre>
ret	関数から復帰する	pc = pop();
enter .	スタックフレームを生成	<pre>push(fp); fp = sp;</pre>
leave	スタックフレームを解放	sp = fp; fp = pop();
mvsp n	SPを移動する	sp = sp + n;
jp label	無条件に分岐する	<pre>pc = label;</pre>
jt label	真なら分岐する	if (pop() != 0) pc = label;
jf label	偽なら分岐する	if (pop() == 0) pc = label;
add	加算を行う	t1 = pop(); t2 = pop();
(sub, mul, div, mod)	(減/乗/除/剰余)	push(t2 + t1);
le	「<=」のとき真	t1 = pop(); t2 = pop();
(eq, ne, gt, ge, lt)	(==, !=, >, >=, <)	if (t2 <= t1) push(1);
		else push(0);
rd	値の読み込み	scanf("%d",&t);
		push(t);
wr	値の出力	t = pop();
		printf("%d ", t);
wrln	改行	<pre>printf("\n");</pre>
halt	プログラムの停止	

- **※**n, d, label はオペランド
- ※pc, sp, fp はそれぞれプログラムカウンタ, スタックポインタとフレームポインタ (仮想 CPU のレジスタ)
- ※t, t1, t2 などは説明のための便宜的な変数
- ※push, popの動作は次のとおりである.

```
push(x) {
    sp--;
    *sp = x;
}

pop() {
    t = *sp;
    sp++;
    return t;
}
```

